

レベル目安

朝鮮語科

各種資格レベル

対象レベル

達成目標

基礎

「ハングル」能力検定試験
5級～4級

韓国語能力試験
1級～2級

※現在、主要な資格試験
には上記のほか、世界韓
国語認証試験(KLPT)もあ
ります。

はじめてハングルに取り組む方のための
クラスです。

ハングル文字とは何か。その文字の成立、
仕組み、書き方、発音を学んでから挨拶、
自己紹介、基本的な文法項目を学びます。
この段階では復習本位の学習をお勧めし
ます。

ハングル文字で書かれたものを音読するこ
とが可能になります。

人や物の有無、指示語を用いたやり取り、
基本動詞、形容詞などを用いて、日課を語り、
意思表示することなどを目標とします。
修了時点では、自己紹介、買い物、飲食店
での注文などの基礎的な表現ができるよう
になります。

初級

「ハングル」能力検定試験
4級～3級

韓国語能力試験
2級～3級

ハングルの読み方、書き方ができ、簡単な
自己紹介、挨拶ができる人のクラスです。動
詞、形容詞の基礎的な活用を学んだ方が対
象です。

初級は表現の幅を増やす段階です。こ
の段階では、あらかじめCDを聞き、辞書を
ひいて、単語の意味の確認など、予習に力
を入れるとより効果的です。

「場面本位」に学んでいくことは基礎級と
同じですが、文法項目としては、過去形、依
頼、意向、強調、理由の表現、不規則活用
など、現実の日常会話に必須のものが含ま
れます。

辞書を引くことに慣れるにつれ、文脈がつか
めるようになります。

中級

「ハングル」能力検定試験
3級～準2級

韓国語能力試験
3級～4級

用言の基本的な活用の他、不規則活用ま
で学習した方を対象にします。

文体の使い分け、短文で言い切るだけで
なく、理由、条件、対比など、文と文のつな
がりに注意して学んでいきます。

初級までの本文に比べると、対話数も多く、
必要語彙もかなり多くなります。

中級では、初級と同様、前もってCDを聞き、
単語の意味や用法を確認する必要があります。

短文の段階からさらに進んで、伝聞形式の
表現、また相手の言葉を受け止めつつ、自分
の意見を伝えることなど、やや複雑な表現力
を習得します。

同時に日記や手紙、エッセイなど、比較的長
い文やまとまりのある文を読む準備をします。
使用頻度の高い慣用句などを会話の中に織り
交ぜて、会話を進めていくことも目標としてい
ます。

上級

「ハングル」能力検定試験
2級～1級

韓国語能力試験
5級～6級

ニュースなどもあらかじめ聞いておけば
話題程度は理解できる方を対象とします。
日本語から朝鮮語への翻訳もします。

文法的に、また語彙的にわからないこと
が多いと感じている場合は、無理をせず、
中級で力を蓄えてから上級にのぞむこと
をお勧めします。

現代の話題について、理解し、内容把握がで
きるようになります。

連語、慣用句、ことわざ、頻度の高い四字熟
語などについても理解を深め、自然な表現を用
いて会話のやり取りができるようにします。

可能な限り、読む、聞く、話す、書く能力の向
上をはかります。この段階では、講師と受講生
は主として朝鮮語を用いて話し合います。

特別講座
セミナークラス

朝鮮語科上級の修了者、または「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験の最上級、
あるいは、それと同程度の語学力の方が対象です。

詳細は、慶應外語Webサイトにてご確認ください。 <http://www.fl.s.keio.ac.jp>